

## なぜ折伏は大事なのか

御法主日如上人猊下は、

相手がいかなる人であろうが、折伏を行じていけば、「一切衆生に悉く仏性あり」（涅槃経）と仰せのように、人は皆、仏性を内在しているのですから、妙法に結縁することによって必ず仏性が開かれ、仏性が仏性としての用きをすることになり、やがてその人は必ず成仏得道に至ることを確信して折伏を行じていくことが大事であります。この確信こそが折伏に必要なのであり、この信心をしていけば必ず幸せになりますということを、心と身体をもって相手に伝えることが大事なのであります

（御指南集17-69頁）

と仰せられ、人々の真の幸福境界は、妙法によって開かれることを御教示されています。

今、私達、日蓮大聖人の正法正義を持つ者は、幸いにも人類の共通の願いである、真の幸せを築く方途を知っています。ですから、御法主上人猊下が仰せのように、日蓮大聖人の本因下種の妙法をもって、世界の人々に教え導かなければなりません。人々を真の幸せに導くために折伏を行ずるのであります。そして、折伏行は、私達自身が幸せな境界を開くために、仏が示された根本的な仏道修行なのであります。

「法華経」には、私達が生きている末法の時代を、「五濁悪世」と説かれています。つまり、人々が自分自身の我見や煩惱、誤った思想等に侵されて、個々の生命や社会全体を濁らせる時代であるということでもあります。実際にその深刻な事態が、世界の国々のあらゆる分野において、顕著になってきております。世界中のあらゆる紛争をはじめ、昨今の無差別殺傷事件などの恐ろしいテロ事件、また、様々な凶悪犯罪、悲惨な事件、また、難民問題などが連日のように報じられています。

この混沌とした現代にあって、世界の民衆はいまだに、正しい教えを知らずにいるのであります。日蓮大聖人が末法の御本仏であるということ、そして、日蓮大聖人が説かれた教え、法門が、唯一絶対の真理であることを知りません。想像を絶する災害や事件が起こるのは、ひとえに間違った教えによるのであります。

それは、日蓮大聖人が『立正安国論』に仰せの、

**世皆正に背き人悉く悪に帰す。（中略）是を以て魔来たり鬼来たり、災起り難起る**（御書234頁）

との御教示に明らかなのであります。ここに、御本仏日蓮大聖人の御出現と、衆生救済の尊い御化導の由縁が存するのであります。そして、日蓮大聖人は『種々御振舞御書』に、

**日本国の一切衆生の法華経を謗じて無間大城におつべきをたすけんがために申す法門なり**（御書1059頁）と仰せであり、これは、「人々の法華誹謗による苦悩を取り除き、真の功德を得させる、そのために日蓮は妙法を弘めている」という意味であります。つまり、「抜苦与楽」という慈悲の行動が折伏なのであります。この折伏の尊さを知り、それを行ずることができるのは、私達日蓮正宗僧俗だけなのであります。

仏の大慈悲は、一切衆生を救う御化導に現れます。つまり折伏は、仏の大慈大悲の御振る舞いであり、

日蓮大聖人は『一昨日御書』に、

**仏の出世は専ら衆生を救はんが為なり**

（御書476頁）

と仰せであり、日蓮大聖人の忍難弘通、迷える衆生に対する折伏は、ひとえに一切衆生を愍（あわれ）み、救わんが故であります。この日蓮大聖人の御意を、弟子檀那である私達は、我が心としなければなりません。

また、『四菩薩造立抄』には、

総じて日蓮が弟子と云って法華経を修行せん人々は日蓮が如くにし候へ (御書1370頁)

と仰せであり、第二祖日興上人は『日興遺誠置文』に、

未だ広宣流布せざる間は身命を捨て、随力弘通を致すべき事 (御書1884頁)

と御教示されています。日蓮大聖人も、日興上人も共に、「折伏を信心修行の第一義として進んでいきなさい」と教えられているのであります。ですから、私達、日蓮正宗僧俗には折伏を行じる尊い使命と役割があるのであり、この根本精神を決して忘れてはならないのであります。

また、日蓮大聖人は多くの御書の中で、知恩報恩の心と行動がない人には、幸福な境界を得ることはできないと戒められています。『四恩抄』には、

末代の凡夫、三宝の恩を蒙りて三宝の恩を報ぜず、いかにしてか仏道を成ぜん (御書268頁)

と仰せであります。そして、折伏を行じることこそが、仏・宝・僧の三宝の恩を報ずる真実の報恩行であり、更に一切の恩ある方々への真の報恩となるのであります。

日寛上人は『報恩抄文段』に、

邪法を対治するは即ちこれ報恩（中略）正法を弘通するは即ちこれ謝徳（中略）謂く、身命を惜しまず邪法を対治し、正法を弘通すれば、即ち一切の恩として報ぜざること莫きが故なり (文段384頁)

と御教示であります。つまり、慈悲行である折伏、真の報恩行である折伏の実践によって、世界の民衆は正法に帰一して広宣流布が達成され、仏国土という平和で安穏な社会が建設されるのです。御法主日如上人猥下は、

折伏は、たとえ相手が、その時は反対して至らなくても、折伏されたことが縁となって必ず成仏得道に至るのであります。（中略）特に、末法今時においては、順縁の衆生はもとより、初めは信心に反対した逆縁の衆生であっても、三大秘法の妙法を聞かせることによって正法と縁を結ばせ、将来、必ず救済することができるのであります。 (御指南集17-59頁)

と御指南であります。日蓮大聖人の正法正義を説くところには、必ず様々な障魔が競い起こりますが、臆することなく尊い仏法を人々に説いていくことが大事であります。折伏せずして順縁の人々も、逆縁の人々の救済もありません。順逆共に成仏の境界へと導いていくために、私達は、日蓮大聖人の弟子檀那としての自覚と慈悲の心を持って、宗祖日蓮大聖人の御金言を根本に、御法主上人猥下の御指南の下、下種折伏に励むことが肝要なのであります。